

— お詫びと訂正 —

学会誌掲載記事正誤表

日本銅学会誌「銅と銅合金」に掲載されました以下の論文で、一部内容に誤りがありました。会員の皆様に謹んでお詫びいたしますとともに、下記の通り訂正いたします。

- 日本銅学会誌「銅と銅合金」第64巻1号(2025) p. 93-100
「Cu-Sn-P合金の高温変形中の粒界による添加元素の引きずりと結晶粒微細化効果」
三浦 博己 他

ページ	該当箇所	誤	正
93	英文概要 8 行目	formation of <u>interstitial and substitute atom pairs (i.e., P-Sn dipole) at</u>	formation of P-Sn atom pairs at
98	右段 5 行目	<u>利用できる数少ない侵入型元素の一つ</u>	利用される原子半径が最も小さい置換型元素の一つ
98	右段 6 行目	P が、置換型元素である	P が、 大型の置換型元素 である
98	右段 7 行目	隣接配位して <u>双極子</u> を形成	隣接配位して I.S.効果に類似した原子対 を形成
98	右段 15 行目	エンタルピーが低く	エンタルピーが -7.5kJ/mol と低く
98	右段最下行	P-Sn 対	P-Sn 原子対
98	Table 3 の一番下の行	<u>Interstitial</u>	Substitute
99	左段 5 行目	この <u>I.S.効果</u> によるものと判断	この P-Sn 原子対 によるものと判断
99	左段 10 行目	された <u>I.S.効果</u> と	された P-Sn 原子対 による 効果 と
99	左段 11 行目	この様な <u>I.S.効果</u> を	この様な 溶質原子の弾性的相互作用 を
99	左段結言(5)の一行目	粒界で P-Sn 対	粒界で P-Sn 原子対

(修正後)

Table 3 Characterization of elements employed in the present study from ref. [14]. Diffusion rate at 1000 K was evaluated using the data.

	Atomic radius (10 ⁻¹⁰ m)	Atomic size ratio	Interstitial or Substitute	Mixing enthalpy with Cu (kJ/mol)	Diffusion coefficient D_0 (m ² /s)	Activation energy for diffusion Q (kJ/mol)	Diffusion rate at 1000 K, D_{1000K} (m ² /s)
Cu	1.28	1	Substitute	-	7.8×10^{-5}	211	7.3×10^{-16}
Sn	1.41	1.1	Substitute	7	1.1×10^{-5}	188	2.7×10^{-15}
P	1.09	0.85	Substitute	-17.5	3.05×10^{-7}	136	2.4×10^{-14}